

No.93

3/26 2003

目 次

2003/04 年度評議員・理事選挙の結果.....	1
2002 年度第 4 回、2003 年度第 1 回合同理事会報告.....	2
第 19 回年次大会案内－別府へ行こう－.....	4
会員 D B とデータ更新.....	9
「イラク問題」をめぐる H P 投稿欄の設置.....	9
国際シンポジウム“Arabian Nights”報告.....	11
ユネスコ東アジア文化研究センターの閉所.....	13
寄贈図書.....	14
事務局の交替.....	15
AJAMES の購入方法.....	15

2003/04 年度(第 10 期) 評議員・理事選挙の結果

2003/2004 年度(第 10 期) 評議員選挙が行われ、2 月 13 日開票の結果、下記の 50 名が選出された。(有権者数 406、投票者総数 113、投票率 27.8%、内無効 4、白票 1)

赤堀 雅幸、新井 政美、飯塚 正人、池田 修、板垣 雄三、伊能 武次、
白杵 陽、太田 敬子、大塚 和夫、大稔 哲也、岡野内 正、片倉 もと
こ、加藤 博、上岡 弘二、川床 睦夫、私市 正年、栗田 禎子、黒木 英
充、小杉 泰、後藤 明、小松 久男、酒井 啓子、坂本 勉、佐藤 次高、

清水 学、杉田 英明、鈴木 董、鷹木 恵子、立山 良司、店田 廣文、
田村 愛理、東長 靖、内藤 正典、長沢 栄治、永田 雄三、八尾師 誠、
羽田 正、林 佳世子、林 徹、福田 安志、保坂 修司、堀川 徹、松本
弘、三浦 徹、宮治 一雄、家島 彦一、柳橋 博之、山内 昌之、山岸 智
子、湯川 武（50音順、敬称略）

評議員選挙に続き、新評議員による理事選挙が行われ、2月27日に開票が行われた（投票総数45、投票率95%）。開票後、当選した佐藤次高会員から、会長職をはじめ長期にわたって理事を務めたことを理由に就任を辞退したいとの申し出があり、理事会および選挙管理委員会で協議した結果、02年7月の理事会での申し合わせ（理事を通算6期以上務めたものから辞退の申し出があった場合はこれを受理する）に照らして、同氏の辞退を受理した。この結果、次点の飯塚正人会員を含む、以下の9名が第10期理事として選出された。また理事選挙の際、会則第9条の規定により、加藤博、私市正年各評議員は被選挙権を保有しないので、予め除外した。

飯塚 正人、臼杵 陽、大塚 和夫、小杉 泰、小松 久男、長沢 栄治、
羽田 正、三浦 徹、湯川 武
（50音順、敬称略）

2002年度第4回、2003年度第1回合同理事会報告

2003年3月17日に、第9期・第10期の引きつぎのために合同理事会を開催し、下記のことが討議・決定された。

日時 2003年3月17日（月） 16:00-20:00
場所 お茶の水女子大学 文教育学部1号館第二会議室
出席 飯塚、臼杵、大塚、岡野内、加藤、小杉、長沢、羽田、三浦、湯川
欠席 私市、小松、永田

議題

1. 第10期会長、事務局の選出

・新理事の合議の結果、小杉泰理事を会長に選出し、03-04年度の事務局は、地域研究企画交流センターにお願いし、臼杵理事が事務局長をつとめることとした。

・会務は、事務局、AJAMES 編集委員会、国際交流委員会を柱とし、また、企画、学術会議などの担当理事を定め、理事会全体で分掌し、必要に応じて、特任の理事や委員を委嘱する。

2 . 02 年度下半期経過報告と確認事項

・第 4 回 AFMA(アジア中東学会連合)大会をもとに、AJAMES 特集号を編集し、そのなかに、AFMA の略史を掲載した。北米中東学会 (MESA) の 2003 年度アンカレジ大会において、Library collections and research facilities for Middle Eastern studies in East Asia が企画され、東アジアにおける中東研究への関心が高まっていることが報告された。

・WOCMES (中東学会世界大会) の第 2 回大会 (05-06 年) 第 3 回大会 (08-09 年) の主催地の立候補が募られていることが報告された。

・会員のデータについて、新書式によるデータベース化の照会調査の進捗状況が報告され、03 年度より、新入会員の入会申込書を新書式に改めること、および、会員名簿の編集も新書式のデータによることが確認された。

・役員選挙の過程で、選出方法に関連する、現会則第 8 条(2) 「評議員は一般会員の中から、正会員の投票により選任する」との条項について疑問が指摘された。事務局で調査したところ、当該条項は、規約制定時には「正会員の中から」と規定されていたものが、2000 年の北海道大会総会での会則改正の際に、議案書に「一般会員の中から」と誤って記され、これに気づかないまま、新会則として発効していたことが判明し、次回役員選挙までに、改訂の必要があることが報告された。また、電子メールを用いた投票方式の導入が提起され、次回選挙までの検討課題とすることにした。

・日本学術会議第 19 期会員について、学術会議からの候補推薦依頼にもとづき、東洋学研究連絡委員会選出の会員候補として後藤明会員を、政治学研究連絡委員会選出の会員候補として鈴木董会員を推薦した (学術会議会員は、本年 5 月に、研究連絡委員会ごとに推薦人会議を開催して選出される) 。

3 . AJAMES 編集報告

・第 18-1 号 (通常号) は、論文・研究ノート 8 本 (和文 5 本、英文 3 本、投稿総数は 11 本) 書評・学界動向 2 本 (いずれも英文) 第 18-2 号 (特集号 Middle East Studies from East Asia) は、論文 11 本 (すべて英文、寄稿者は中国 4 , 韓国 2 , 日本 5) を所載し、会員には 4 月上旬に発送される (但し、3/31 までに、02 年度会費を納入した者に限る)

・本年度より装丁を改め、また、巻末に広告を掲載する。

4. 会則および細則の整備・改正について

・運営の改善のために、つぎのような現行会則の見直しが必要であり、これについて、次期理事会で審議することが提起された。

- a. 事務局と編集委員会にくわえて、国際交流委員会を設置すること（会則第 10 条）
- b. 現行会則では、海外在住会員は、郵送料の差額を負担し、また会費送金の際の手数料も高額になる。本学会での発表や寄稿を希望する外国人（アジア・アフリカ地域在住者）が増えつつあるなかで、海外在住者が本学会への活動に参加しやすいような制度や環境の整備を検討する（具体的には、現在の正会員、学生会員、賛助会員とは別の会員カテゴリーを設けるか、それとも会費面で便宜をはかるか）。

第 19 回年次大会のご案内 別府へ行こう

来る 5 月 10 日（土）11 日（日）に、立命館アジア太平洋大学（大分県別府市、略称 APU）で開催される年次大会のプログラム概要が下記のように決まりました。初日の公開講演会は「イラク問題」をテーマに、2 日目は内外から 41 本の研究発表が予定されています。とくに海外からの参加申し込みも多く、大分の地で、さまざまな出会いや交流が期待できます。

会場となる別府市、懇親会場の湯布院は風光明媚、湯量豊かな温泉地、美食の里として著名ですが、遠隔地のうえ、現地での移動が便利ではありません。そのため関東・関西からの参加者には、お得で便利な学会パッキングツアー（航空賃、宿泊費、交通費、懇親会費を含む）を企画しています。これまでは、大会プログラムが明らかでなかったため、本パッキングツアーへの申込みの出足がよくありません。なにとぞ、本プログラムをご覧になり、関東・関西方面の会員の方は、早めにツアーに申込みくださるようお願いいたします（詳しくは下記説明および別紙案内を参照）。なお、正規の大会案内・プログラムは 4 月上旬に、大会実行委員会から別途、郵送いたします。

1. 会場 立命館アジア太平洋大学 (APU)
2. 交通

航空機利用の場合 大分空港から大分行き、若しくは別府行きでバス（エアライナー）で亀川古市下車（約 30 分、1,400 円）、亀川古市にて APU 行きバスで 15 分（320 円）

鉄道を利用の場合 別府駅西口及び東口より APU 行きバスで 30 分（500 円）

3. 大会プログラム

5月10日(土) ミレニアムホール

12:30より 受付開始 (昼食は学生食堂を利用できます)

13:30 挨拶(主催者、および来賓)

13:40~16:00

公開講演会「イラク問題を語る」

講師 酒井啓子(アジア経済研究所) 他

16:15~17:15 日本中東学会総会

総会終了後、湯布院に移動(バスにて30分)

18:30より 懇親会(湯布院ハイツ)

5月11日(日) 研究発表 午前と午後に分けて11の分科会を予定。

午前の部 9:30~12:10

昼休み 12:10~13:10 (学生食堂にて食事)

午後の部 13:10~16:00 (休憩10分を含む)

4. 研究発表 分科会および発表者、発表題目は下表のとおりです(いずれも仮題)。なお、海外からの参加者の到着時刻や機材の使用の都合などによって、会場や時間の変更がありえますので、詳しくは、大会実行委員会からのプログラムでご確認ください。

< 午前の部 >

第1分科会

今野 毅	北海道大学大学院	ディルリク保持者の変容：15-16世紀オスマン朝下アルパニアの場合
黛 秋津	東京大学大学院	18世紀末-19世紀初頭オスマン・ヨーロッパ関係の中のワラキア・モルドヴァ問題：露土関係を中心に
秋葉 淳	日本学術振興会	オスマン朝イスラーム法廷文書研究の諸問題
小松香織	筑波大学	オスマン帝国末期の黒海沿岸民：『特別局給与台帳』の分析を通して

第2分科会

後藤絵美	東京大学大学院	クルアーンとヴェール：啓示の背景とその解釈
嶺崎寛子	お茶の水女子大学大学院	ファトワーにみる現代エジプトのジェンダー規範
阿部るり	ロンドン大学大学院	トルコ南東アナトリアにおける都市移住と女性
Zahra Taheri	Tokyo University of Foreign Studies	The Depiction of Women in Persian Literature

第3分科会

アレズ・ファクレジャハニ	東京工業大学大学院	イランのアゼルバイジャン地方における常民の国家認識：オーラルヒストリで見る近代史
Michael Penn	University of Kitakyushu	First Contact: The Story of the Zadakia
中村妙子	お茶の水女子大学大学院	12世紀前半のアレポ外来政権とジャジーラ
長谷部史彦	慶應義塾大学	15世紀中葉カイロの食糧騒動

第4分科会

横田貴之	京都大学大学院	現代エジプトにおけるイスラーム政党：ワサト党を巡る一考察
吉川卓郎	立命館大学大学院	1990- 1991年湾岸危機下のイスラーム報道にみる政治性：エジプトの事例を中心に
新井一寛	京都大学大学院	現代エジプトにおけるタリーカ(スーフィー教団)の形態：ジャーズーリーヤ・シャーズィリーヤの事例から
加藤 博 岩崎えり奈 Ali El-Shazly	一橋大学	Self Sustained Development and Migration in the Greater Cairo: Study based on the Egypt Urban Household Survey

第5分科会

辻上奈美江	神戸大学大学院	近年のザカート研究とサウジアラビアのザカート
子島 進	京都大学大学院	ワクフと社会開発：パキスタン
鈴木 均	アジア経済研究所	ルースター・シャフル再論
森田豊子	神戸大学大学院	イラン学校教育の中のイスラム

第6分科会

岩永尚子	津田塾大学大学院	ヨルダンにおける近代教育の受容、浸透過程について：国家と社会の側面から
大川真由子	東京都立大学大学院	アフリカ系オマーン人のネットワーク
大庭竜太	京都大学大学院	クルド・ヌルジュ運動における思想とその位置づけをめぐって：現地調査の中間報告として

< 午後の部 >

第7分科会

中町信孝	東京大学大学院	ハドルッディーン・アイニーの年代記
Salah Hannachi	Ambassador of Tunisia	US-Tunisia Diplomatic History in Terms of Abolition of Slavery
亀谷 学	北海道大学大学院	ダーラブギルドにおけるアラブ・サーサーン銀貨の発行について
Ali El-Shazly	一橋大学	A Study on the Cognitive Structure of the Historical European Quarter in Cairo

第8分科会

小島 宏	国立社会保障・人口問題研究所	中央アジアにおける環境汚染と母子の健康
澤井充生	東京都立大学大学院	イスラーム聖者の墓をめぐるポリティックス：中国寧夏回族自治区銀川市フイーヤ派の事例から
Dae Sung Kim	Hankuk University of Foreign Studies	Hope and Frustration of Turkish Nations in Central Asia
Byong Joo Hah	Busan University	Korean Perception of Islam

第9分科会

Bedhri Mohammad	Morocco	The Contribution of a Religious Sect to the Development of Islamic Sufism: the Case of the Boutchichia's Zaouia
Morteza Nouraei	Isfahan University	Globalization of the Past, a Passive Awareness or Effective Influence: Case Study of Middle East Region
Abdullah Mohammed	Kuwait University	未定

第10分科会

武石礼司	富士通総合研究所	中東産油経済
夏目美詠子	日本貿易振興会	トルコ エネルギー政策
細井 長	立命館大学大学院	ドバイの開発戦略
柏木健一	筑波大学社会科学系技官	安定化・構造調整政策下のエジプトにおける農業の成長と労働力の吸収

第11分科会

黒田安昌 鈴木達三	ハワイ大学・早稲田大学 統計数理研究所名誉教授	Arab and Japanese Culture in Comparative Perspective: The Role of Mother Tongue and Culture
佐藤道雄	広島大学	アラビア語における 'inna hu, 'anna hu に後続する動詞文に関する考察
Mahdi Arar	Birzeit University	Phonological Suggestibility of Semantic Content of Arabic

5. 参加費用

大会参加費 1000 円

懇親会費 ツアーパック申込みの方は、宿泊費に含まれていますが、別途、飲み物代（1000 円を予定）をいただきます。パック以外の方は、5000 円（学生会員は 3000 円）を予定しております。

6. 学会ツアーパックの利点

- ・航空賃が団体運賃のため割安です（羽田—大分往復便は 32000 円。正規運賃 49,900 円、早割 43,600 円ですから、これだけでも 1 万円以上の割安です。大阪—羽田便も、正規運賃 27,500 円のところを、早割と同じ 22,600 円になっています）。
- ・現地での貸し切りバスによる輸送賃をセットにしています。1 日目の空港—大会会場（APU）—懇親会場兼ホテル（湯布院）への移動、2 日目のホテル（湯布院）—大会会場—大分空港への移動をすべて、貸し切りバスで送迎します。上記ルートをすべてを路線バスで移動した場合は 8,280 円、タクシーでは大分空港—APU の片道だけで約 11,000 円がかかります
- ・会員の都合にあわせたオプションにも対応します。たとえば、1 日目に別府で昼食をとりたい方は空港からの貸し切りバス便を利用して、別府で下車することができます。大会終了後、別府もしくは湯布院などに一泊して 3 日目に帰宅することも可能です。予定便以外での航空券の手配もできますが、この場合には、団体運賃より高くなり、空港—大会会場（APU）間の貸し切りバス便はご利用いただけません（大会会場—湯布院の貸し切りバス便はご利用いただけます）。
- ・宿泊は、湯布院ハイツを予定しています。このホテルは、和室形式のため、4—5 名の相部屋になりますが、個室での宿泊をご希望の方には、別料金で湯布院のコーワパーク・ホテル（懇親会場から車で 10 分）を用意いたします。この場合でも、貸し切りバス便をご利用いただけます。
- ・公費でのご出張の場合に、航空賃のみ、宿泊を含めたパック料金のいずれでも、請求書や領収書を用意できます。旅行代理店テクノビジネス社は、中東研究者の海外出張での利用も多く、このような事務に慣れています。
- ・**申込み方法** 同封の学会パックツアー案内書をご覧になり、申込書にご希望のスケジュールを記入のうえ、旅行代理店テクノビジネスに4 月 5 日（土）までにお申込みください。同社では、羽田—大分便を 100 席確保してしましますが、同日までに予約数がこれを大幅に下回る場合にはツアー自体を解約せざるをえなくなり、航空券の割引や現地でのバス貸し切り輸送も不可能になり、大会自体の運営にも支障が生じかねません。このような事情をご理解くださり、早めに、申込みくださるよう、大会実行委員会および学会理事会から、お願い申し上げます。

7. 大会実行委員会連絡先

中東学会第 19 回年次大会実行委員会

〒874-8577 大分県別府市十字原 1-1 立命館アジア太平洋大学

武藤幸治研究室

電話 0977-78-1091 FAX 0977-78-1123（武藤幸治宛を明記のこと）

電子メール kojimuto@apu.ac.jp

会員データベースとデータ更新

ニュースレターの第92号(02年12月16日号)でお知らせしたように、会員の方々の個人データを、統一した新書式に改め、会員データベースとして作成し直すことを決定し、その照会調査を行っております。第92号に同封した、新書式の会員データについて、すでに300の会員から返信をいただいております。まだ、返信をいただいていない方については、本ニュースレターに調査票を同封してありますので、遅くとも4月5日までに現事務局(お茶の水女子大学)宛に、郵便やファックスなどでご返送くださるよう、お願い申し上げます(電子メールでご連絡いただく場合には、訂正事項だけお知らせください)。なお、2003年度の会員名簿は、本照会調査票に基づいて編集致しますので、ご返送がない場合には、調査票の記載のデータに拠ることを、あらかじめご了承ください。

なお、調査票をご返送いただいたのちに、住所や所属などの変更があった方(あるいは4月以降に予定がある方)も、お早めに、事務局宛にご連絡いただけるように、お願いいたします。

イラク問題をめぐるHP投稿欄の設置

3月20日、米英等による対イラク戦争が開始されました。学会理事会では、下記の会長所信の趣旨により、「イラク問題」について、さまざまな事実や論点を検証し議論するために、学会ホームページ上に投稿欄を設置することにいたしました。現地からの情報の提供や素朴な疑問の提起も歓迎します。

「イラク問題」と中東

会長 加藤 博

3月20日、イラク攻撃が開始された。多くの中東研究者がある種の無力感を覚えたに違いない。中東研究を取り巻く環境が湾岸戦争、9・11「同時多発テロ」の時とは全く異なったものになったからである。曲がりなりにも、湾岸戦争の時には中東の政治事情が、9・11「同時多発テロ」の時にはイスラーム政治運動が、議論の中心に据えられた。ところが、今回は、戦争へといたる過程において、「イラク問題」と言われながらも、議論は中東やイスラーム世界と関係のない次元で進んだ。一言で言えば、これは「イラク」問題ではなく、「アメリカ」問題である。「イラク」は議論のだしに使われたに過ぎない。日本とのかかわりが議論される

ときにも、日米同盟か国際協調か非戦かと短絡した議論に収斂している。その結果、政策担当者や専門家にいたるまで、「独裁」や「テロ」や「イスラーム」といった単純な中東観に基づく議論が続き、複雑な中東の現実が省みられることはない。

ところが、中東は、パレスチナ問題をはじめとして、近現代の国際政治経済システムにおける矛盾が集積する地であり、その理解のためには、複雑な事件や現象の連鎖を読み解く粘り強い思索を必要とする。それを怠ることは、現在、確実に進行している中東の「周辺化」「ローカル化」を後押しすることになる。中東研究者はそれを座して、見過ごすことはできない。ここ学会のホームページ上に、「イラク問題」についての投稿欄を設け、中東を専門領域とする会員が、戦争へといたる過程を未来にむけて検証し、これを学会の内外に発信していくことを提案する所以である。

[投稿規定]

投稿資格は、日本中東学会会員に限り、また、内容は研究団体としての本学会の性格に沿ったものであること。

投稿は、会員個人の資格でおこない、その内容については、個人が責任をもつこと。いかなる場合でも、掲載された投稿は、日本中東学会の意見を代表するものではない。

投稿には「表題」を付し、投稿者の姓名を明記し、必要に応じて所属先、専攻分野、当人の電子メールアドレスなどを記す。

投稿分量は、1回について2000字程度とし(日本語の場合)、関連する他のホームページアドレスなどを指示することも可。使用言語は、技術上の理由から、日本語または英語を原則とする。

掲載期間は、当面、2003年9月までを予定。

原稿は、学会事務局宛てに、電子メールまたは郵送で、Wordファイルあるいはテキストファイルをお送りください。日英以外の言語による投稿を特に希望する場合には、ホームページにPDFファイルとして掲載できる形でお送りください。なお、掲載までには数日を要すること、誤字や文章表現の明らかな誤りについては、事務局で訂正することをご了承ください。

国際シンポジウム報告 “Arabian Nights and Orientalism in Resonance”

下山 伴子（東京外国語大学非常勤講師）

昨年末12月12-13日の2日間にわたり、国立民族学博物館で社団法人林原共済会の共催により、国際シンポジウム“Arabian Nights and Orientalism in Resonance”が開催された。来年2004年は1704年にガランのフランス語訳によりアラビアンナイトが西欧に紹介されてからちょうど300年にあたり、民博では特別展が企画されている。本シンポジウムはその準備過程の一端として開催され、国内外から13名の報告者を含む約30数名の参加者のもと、民博所蔵の約870点のアラビアンナイト書籍コレクション見学も交えるなど、小規模ながら密度の濃い2日間となった。本シンポジウムの主題は西欧のオリエンタリズムにおいて独自の発展を遂げたアラビアンナイトの変容の再検討であり、(1)Arabian Nights in Arabic Literature, (2)Arabian Nights from a Comparative Literature Perspective, (3)Arabian Nights in Imagery, (4)Arabian Nights and Orientalism の4つのセッションを通して、中世アラブ文学から今日の世界文学としての側面まで多方面にわたり「共鳴する」アラビアンナイト研究の可能性が実に様々な角度から検討された。以下では一聴講者として印象に残った点を中心に簡単に所感を記したい。

1日目にはまず主催者の西尾哲夫氏による基調講演が行われた。西尾氏の報告“The Arabian Nights’ Vision: the Imagined Other: the Reflected Self”は自己と他者の関係性を認識する場として文学の発展段階をジャンルごとに分類し、アラビアンナイトを発生期の民話の形態から複合的な叙事詩への移行、西欧での文学的フィクション、いわゆるオリエンタリズムの生成へと複数の発展段階に位置づけた。西尾氏の提示したモデルは概略的であったが、社会言語学的な観点からアラビアンナイトの「共鳴する」側面を構造的に示した点で、最初の基調講演にふさわしい報告であったと思われる。なお、1日目の第2セッションでの青柳悦子氏の報告“Iterability and Hybridity in the Arabian Nights: toward an Innovation of Narrative Theory Today”ではアラビアンナイトの様々な側面での複合性と物語内部の反復性が外への強い指向性を持つ説話文学の特徴として評価され、アラビアンナイトの「共鳴性」を文学理論の観点からも確認する場となった。

Ulrich Marzolph氏による2つ目の基調講演“The Arabian Nights in Comparative Folk Narrative Research”は、アラビアンナイトの西欧への受容の過程を概観した後、比較民話研究におけるアラビアンナイト研究の動向と展望を整理した。オリエンタリズムと決して切り離して論じることのできないアラビアンナイトという文化的複合体の性質が改めて認識されるとともに、比較民話研究においてもこうしたアラビアンナイトの複合性が障壁となる現状が指摘された。こうした問題へのアプローチとして、Marzolph氏は現在氏の監修のもとで進められているリファレンスガイド作成のプロジェクトを紹介したが、第1セッションのHasan el-Shamy氏

の報告“*Mythological Constituents of Alf Layla wa Layla*”でも、el-Shamy 氏による数千件に渡るアラビアンナイトの物語モチーフのデータベースが紹介された。

1 日目には他に、アラビアンナイトの語りの形式的な特徴を概観した Kathrin Müller 氏の“*Formulas and Formulaic Pictures: Elements of Oral Story-telling in the Thousand and One Nights*”のほか、比較文学の視点による報告として、山中由里子氏の“*Alexander, Lord of the Two Horns, in the Thousand and One Nights*”、山本久美子氏の“*The Genesis of The Arabian Nights: A Persianist’s Point of View*”があった。山中氏の報告では広範な伝承経路を持ちアラビアンナイトにも収められているアレクサンダー伝説が紹介され、山本氏の報告ではペルシア文学におけるナッカールの語りの分析を通して口頭伝承とテキストの関係が検討された。Marzolph 氏の報告でもアラビアンナイトに対する比較民話研究が同時に「*カリラとディムナ*」等の説話も射程に入れる必要が述べられたが、山中氏や山本氏の報告ではペルシア文学まで視野に入れたアラビアンナイトの伝承過程も、当然の事ながら非常に広範に渡る研究領域であることが確認された。

2 日目は第3・第4セッションを通して欧米及び日本のオリエンタリズムにおけるアラビアンナイトの表象が具体的に検討された。第3セッションではまず Margaret Sironval 氏の報告“*The Image of Shahrazad in the French and English Edition of the Thousand and One Nights(XVIIIth /XIXth Century)*”で、印刷本の普及の過程で挿し絵の効果によりテキストと乖離したシャフラザード像が形成されていった点が示された。続いて小林一枝氏の報告“*Art and Artists on the Arabian Nights*”でもプロジェクターを利用して18世紀から20世紀までの挿し絵の作風の変遷が紹介された。なおこの第3セッションの前にこれらの印刷本の民博所蔵コレクションの見学が行われたことも、報告と連動して西欧におけるアラビアンナイトへの憧憬への理解を深める機会となった。

第4セッションではブロンテ姉妹の作品におけるアラビアンナイトの影響を論じた中尾知代氏の“*Merely ‘Orientalism’ or Woman’s Alliance in the Power of Narratives?: Brontë Sisters and the Arabian Nights*”、挿し絵に見られるシャフラザードの身体表現を論じた鷺見朗子氏の“*Text and Illustration in the Frame Story of the Thousand One Nights*”、文献学的な観点から日本におけるアラビアンナイト受容の過程を紹介した杉田英明氏の“*The Arabian Nights in Modern Japan: A Brief Historical Sketch*”が報告された。中尾氏と鷺見氏の報告はそれぞれジェンダー研究の視点を交えたアプローチであり、オリエンタリズムとの関連で常に他者性の問題を内包するアラビアンナイト研究の現代的な側面を表した報告であったといえよう。

本シンポジウムではこのようにアラビアンナイトの変容というテーマのもとに多くの事例が報告され、アラビアンナイトという一つの文学系統が異なる文化的

背景を持つ人々のあいだで受容され再構築されていった過程が再確認された。中東研究者にとってオリエンタリズムという言葉は政治的な意味でのマイナスの側面で認識されることが多いが、本シンポジウムではオリエンタリズムを伴うアラビアンナイトの変容を歴史を通じて付加された豊かさとして積極的に評価しようとした点が興味深く、文学研究においてオリエンタリズムを論じる新たな言語を模索していく可能性について考えさせられた。しかしながらこうした学際的な方向性は個々の研究領域における緻密な検証を必要とするものであり、アラビアンナイト研究の広がりと同時に更に多くの課題が認識される機会でもあった。その意味でも一つ残念だった点は、参加者の専門上日本におけるオリエンタリズムの位置づけが曖昧になってしまったことである。杉田氏や西尾氏の報告では文献学的な観点から整理が行われたが、日本でこうしたシンポジウムを開く際に恐らく不可避の問題として日本史におけるより具体的な検証の必要が実感された。

ユネスコ東アジア文化研究センターの閉所について

東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センターThe Centre for East Asian Cultural Studies for Unesco が、本年3月末をもって閉所され、42年にわたる歴史の幕を閉じることになりました。同センターは、ユネスコの協力によって設置され、アジア諸地域の人文・社会科学に関するインフォメーションセンターとしての活動してきました。本学会ととりわけ関係が深いのは、『日本における中央アジア関係研究文献目録 1879年-1987年3月』1988、『日本における中東・イスラーム研究文献目録 1868年-1988年』1992の二つの文献目録を編纂したことです。

1992年に刊行された『日本における中東・イスラーム研究文献目録』は、明治から昭和までの120年間の日本語および日本で刊行されている文献15000点を、分野別に編纂したもので、執筆者・表題などを欧文で併記してあるため、海外の研究者や研究機関でも歓迎されました。編纂にあたっては、すべての文献を現物にあたり書誌情報を確認するという途方もない計画を実行し、佐藤次高前会長が責任者となり、大学院・学部学生が図書館や個人宅に通って情報を収集しました。この現物確認の過程では、多くの学会員の方々に情報を提供していただきました。

その後本目録を母体にした文献データベースが、東洋文庫および国立情報学研究所において公開され、さらに、1989年以降の文献についても逐次増補を行い、現在の文献件数は24,602を数えています。東洋文庫ホームページでは、著者名、タイトル、キーワードのいずれでも検索できるために、学生の卒論やレポートの作成あるいはその指導にとても役に立つと好評でした。

同センターの閉所に伴い、上記文献目録データベースのアップデートは継続で

きなくなり、また、東洋文庫ホームページ上での公開も3月31日をもって、停止することが予告されています（国立情報学研究所の情報検索サービスNACSIS-IRによる公開は継続しますが、有料での利用になります）。

日本中東学会理事会では、このような文献データベースの作成事業を継続するために、平成15年度文部科学省科学研究費補助金に『日本における中東研究文献データベース1989-2003』を申請しています。（三浦 徹、お茶の水女子大学・東洋文庫研究員）

学会への入会希望者がおられましたら、事務局宛にご連絡ください。入会案内と申込書をお送りいたします。また、学会ホームページに、学会概要と入会申し込み要項が掲載されていますので、こちらをご利用いただくと便利です。

寄贈図書

【単行本】

浜中新吾著 『パレスチナの政治文化 民主化途上地域への計量的アプローチ』、大学教育出版、2002年

伊能武次・松本 弘共編 『現代中東の国家と地方』(I)(II)、(財)日本国際問題研究所、2001-2003年

Baqāyā al-Firdaws: Āthār al-Baḥrayn (BC. 2500-300), 2002, Baḥrayn: Wizārat al-Thaqāfa.

【逐次刊行物】

『関西アラブ・イスラム研究』2、2002年、関西アラブ研究会

『現代の中東』34、2003年、アジア経済研究所

『世界民族』、2002年第1～6期、北京

『民族研究』、2002年第1～6期、北京

Ahl Ul-Bayt, Aug/Sept 2002, London: The World Ahl ul Bayt Islamic League.

al-Baḥrayn al-Thaqāfa, vol. 33, 2002, Baḥrayn.

Anjoman Newsletter, No.10 Jan. 2003, Tehran: The Association of Iran's Japan Alumni.

Journal of the American Research Center in Egypt, vol.38, 2001, Cairo: American Research Center in Egypt.

学会事務局の交替について

2003 年度から、学会事務局は、国立民族学博物館地域研究企画交流センターに交替し、臼杵陽理事が事務局長として、これを担当いたします。新事務局の連絡先は、次のとおりです。なお、4 月中は引継期間として、新旧事務局が協力して会務にあたりますので、旧事務局にご連絡をいただいた場合でも、適宜処理いたしますので、ご安心ください。なお、AJAMES 編集委員会も、東京大学東洋文化研究所内に移りますので、関連のご連絡は、そちらにお願いいたします。

新事務局連絡先

〒565-8511 吹田市千里万博公園 10-1
国立民族学博物館・地域研究企画交流センター 気付
日本中東学会事務局
電話・ファックス 06-6878-8340 (臼杵研究室)
専用の電話番号と電子メールアドレスが決まり次第、お知らせいたします。

AJAMES 編集委員会の連絡先

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学東洋文化研究所
西アジア部門室 (長沢栄治)
電話・ファックス 03-3815-9565
電子メール <nagasawa@ioc.u-tokyo.ac.jp>

—AJAMES の購入方法—

02 年度より、AJAMES の販売・頒布を日本学会事務センターに委託しています。ご所属の機関などで購入の場合は、下記にご連絡ください。なお、1-12 号は残部がありますが (6 号は僅少)、13-16 号は余部がありません。会員が個人として購入する場合は、本学会事務局にご連絡ください。

財団法人 日本学会事務センター
東京都文京区本駒込 5-16-9
電話 03-5814-5822 FAX 03-5814-5822
<http://www.bcasj.or.jp/bcasj/sub/intl>
E-mail: sub-intl-rcpt@bcasj.or.jp

2003年度会費納入のお願い

本会は、会費前納制をとっておりますので、3月末までに2003年度分の会費をお払い込み下さるようお願いいたします。未納の方は本号ニューズレターに郵便振替払込用紙が同封されていますのでご利用ください。02年度以前の会費を未納の方は、払込とともに当該年度のAJAMESをお送りいたします。

事務局より

2年間の事務局の仕事が終わろうとしています。この間、なんと74名新入会員が加わり、会員総数は600名の大台を一気に越えました。新入会員の多くは大学院学生で、さっそくに大会で研究発表し、AJAMESに寄稿しています。

第9期は理事が若返り、さまざまな事業や改革が試みられました。会長の加藤さんのアイデアや提言を理事会でかため、それを実行するのが事務局の仕事でした。AJAMESの刷新は大きな課題でしたが、装丁を読みやすいものに改め、持ちやすい2分冊にしました。03年度からは、秋と春の年2回の刊行になり、小特集を企画し、機動性がますことでしょう。AFMAやWOCMESの大会にも、多くの学会員が参加し、とりわけWOCMESでのブースの盛況ぶりはいまでも目に焼き付いています。

しかし、事務局の日課は、花々しい集会や大会の企画とは違って、会員との連絡事務です。郵便振替による会費振込通知が、ほとんど毎日のように学会事務局に届きます。1年で金額にして400万円以上、のべ人数にして500人以上の方々から納付していただくのですから。これをもとに、会計簿に名前、年度、金額を記帳し、会員DBと照合しこれに記録します。振込額が不足したり、既納だったり、住所が変わっていたりした場合は、ご本人に連絡をとります。大会の時に現金払いで頂くのが、会員にとっても事務局にとっても、手数料がかからず間違いがないということになります。

こうして頂いた会費は浄財ですから、1円の無駄使いもないよう節約を心がけます。2年がかりで、第4種学術刊行物の認可をとり、今年度からAJAMESがこれまでの半額以下の送料で郵送できるようになったことはヒットでした。きちんと会費を納めてくださる会員をみると、会費に応える活動やサービスを提供したいと思います。中東学会は、地域研究の推進を目的とする学会ですから、大会(年次大会やAFMAなどの国際学会)での研究発表や年報において、質の高い

研究が提供されることが第一義でしょう。そこでは、発表者・投稿者が主役にみえるかもしれませんが、大会や年報という舞台をつくっている裏方（実行委員や編集委員）あるいはその活動を支えている会費納入者があってのことだということを、忘れないでほしいものです。

第二には、よりひろく、中東に関わる情報の提供があります。01年度から、学会メーリングリストによるニュースの配信を開始し、また学会ホームページを開設したのは、このような目的のためです。学会メーリングニュースは、登録者は400名を越え、年度末には配信数100号を迎えるでしょう。基本的には、会員が提供する会員に有益な情報であれば、配信しますので遠慮なくご連絡ください（営利目的のものは除く）。ホームページもアクセス数は15000件を越えていますが、「文献短評」欄をはじめとする投稿をもっと活発にできればと思います。本学会は、設立時から、大学や研究機関に所属する研究者にかぎらず、国際機関、外交官、ジャーナリスト、企業など、さまざまな場で中東とかわる人々の「開かれた学会」となることをめざしており、入会に際して、特段の審査や推薦を要求していないのは、そのような趣旨からです。今後、各種の講演会や催しを通して、中東をめぐるさまざまな交流が広がっていくことを期待します。

正会員がひとりの機関でしたが、電子メールやパソコンといった電子技術のおかげで、どうにか大きなミスもなく、「地域研」にバトンタッチをすることができたのはなによりです。この2年間の事務局を支えてくれた多くの方々、とくに主務として事務を担当してくれた後藤裕加子さんと島谷泰子さんには、この場を借りて、もう一度お礼を申し上げなければなりません。ニューズレターの発送などでは、お茶の水女子大学の院生・学生諸姉に手伝ってもらいました。手狭な研究室の作業場でしたが、ときには話しに花が咲くこともあったようです。そして、私の所属する比較歴史学コースの同僚が、会務にかまけている私を暖かく見守ってくださったことも目にみえない支えでした。中東地域研究の発展を祈って、ペンを置きます。（三浦 徹）

日本中東学会ニューズレター 第 93 号

発行日 2003 年 3 月 26 日
発行所 日本中東学会事務局
印刷所 東洋出版印刷株式会社

日本中東学会事務局

〒112 -8610 東京都文京区大塚 2 -1 -1
お茶の水女子大学文教育学部
比較歴史学コース三浦研究室内
TEL & FAX : 03 -5978 -5184
E メール : james@cc.ocha.ac.jp
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/james/index.html>
郵便振替口座 : 00140 -0 -161096
銀行口座 : 三井住友銀行渋谷支店
普通 No. 5346808